







年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位  
 対象学年組：第1学年 1組 8組  
 教科担当者：（1・4・5・6・7組：小夏）（2・3・8組：小野寺）  
 使用教科書：（『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』改訂版（山川出版社））  
 教科 地理歴史 の目標：  
 【知識及び技能】日本や世界の地域的特色や歴史の展開について理解するとともに、地図や統計、史料を読み取る力  
 【思考力、判断力、表現力等】事象の意味や特色、相互の関連を、多面的、多角的に考察したり、課題解決を構想したりする力  
 【学びに向かう力、人間性等】持続可能な社会の実現に向けて、自ら主体的に授業や社会に関わろうとする力

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
知識・近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中日本を含む社会的視野から捉え、近現代の歴史を理解する。技能・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身につける。	近現代の歴史の変化に関する事象の意味や特色、特色などを、統合し多面的・多角的に考察し、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したり表現する力を養う。	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>【知識及び技能】産業革命による工業化、中国の開港と日本の開港、世界市場の形成などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】世界市場の形成などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】産業革命などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】歴史の原 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 &lt;第1部 第1章 結びつく世界と日本の開港&gt; 「近代化と私たち」について問いを表現する ③東洋の東アジアにおける社会と経済 ④貿易が結んだ世界と日本 ⑤考察 ⑥中国の開港と日本の開港</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】産業革命による工業化、中国の開港と日本の開港、世界市場の形成などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】世界市場の形成などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】産業革命などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	10
<p>中間考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1
<p>【知識及び技能】市民革命、ナショナリズム、明治維新、日本の産業革命、帝国主義などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】市民革命などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】帝国主義などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】&lt;第1部 第2章 国民国家と明治維新&gt; ①市民革命 ②国民国家とナショナリズム ③考察 ④日本の産業革命 ⑤帝国主義 ⑥東洋の東アジアの国際秩序の形成と大衆化と私たちが ⑦日露戦争と東アジアの激動 「近代化と現代の諸課題」について問いを表現する</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】市民革命、ナショナリズム、明治維新、日本の産業革命、帝国主義などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】市民革命などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】帝国主義などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>期末考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1
<p>【知識及び技能】第一次世界大戦と戦後の国際協定期間の成立、ワグネル運動の成立などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】第一次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】第一次世界大戦などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】&lt;第2部 第3章 総力戦と社会 ①第一次世界大戦の展開 ②ワグネル運動の成立とアメリカ合衆国の台頭 ③ケルゼン体制とワグネル運動 ④世界経済の変容と日本 ⑤日本のナショナリズム ⑥日本の政治参加 ⑦消費社会と大衆文化</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】第一次世界大戦と戦後の国際協定期間の成立、ワグネル運動の成立などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】第一次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】ワグネル運動などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	11
<p>中間考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1
<p>【知識及び技能】世界恐慌、第二次世界大戦と戦後の国際経済体制の成立、冷戦、日本の占領などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】第二次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】第二次世界大戦などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】&lt;第2部 第4章 経済危機と第二次世界大戦&gt; ①世界恐慌の時代 ②ファシズムの覆滅と共産主義 ③日中戦争への道 ④第二次世界大戦の展開 ⑤国際連合と国際経済体制 ⑥冷戦の始まりと東アジア諸国の動向</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】世界恐慌、第二次世界大戦と戦後の国際経済体制の成立、冷戦、日本の占領などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】第二次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】第二次世界大戦などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>期末考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1
<p>【知識及び技能】植民地化と第三世界の形成、終戦後をめぐる暴動と暴乱、高度経済成長などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】植民地化などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】高度経済成長などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】&lt;第3部 第5章 冷戦と世界経済&gt; 「グローバル化と私たち」について問いを表現する ①戦後の地域戦争と植民地化 ②東西両陣営の動向と1960年代の社会 ③社会から緊張緩和へ ④地域連帯の形成と展開 ⑤計画経済とその波及 ⑥日本の高度経済成長 ⑦アジアのなかの戦後日本</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】世界恐慌、第二次世界大戦と戦後の国際経済体制の成立、冷戦、日本の占領などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】第二次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】冷戦などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	9
<p>中間考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1
<p>【知識及び技能】ドルショックとオイルショック、開発途上国、冷戦の終結とソ連の崩壊、地域統合と地域紛争などについて、基本的な知識を理解する。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】石油危機などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】冷戦終結などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究する態度を養う。</p>	<p>【指導事項】&lt;第3部 第6章 世界秩序の変容と日本&gt; ①石油危機 ②アジア地域の経済発展 ③市場開放と経済的自由化 ④情報技術革命とグローバルゼーション ⑤冷戦の終結とソ連の崩壊 ⑥現代の東アジア ⑦開発途上国・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 ⑧地域統合の拡大と変容 ⑨地域紛争と国際社会 「現代の諸課題」について問いを表現する</p> <p>【教材・一人一台端末の活用】教科書、授業プリント、課題の提出や討論および振り返りには一人一台端末でロイノートを活用</p>	<p>【知識・技能】世界恐慌、第二次世界大戦と戦後の国際経済体制の成立、冷戦、日本の占領などについて、基本的な知識を理解している。諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】第二次世界大戦などについての諸資料を読みとくことを通じて、歴史事象の特徴について多面的、多角的に考察・議論し、文章等で表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】冷戦などの歴史事象を材料として、よりよい社会の実現をめざして課題を主体的かつ対話的に学びを深め、追究しようとしている。</p>	○	○	○	11
<p>学年末考査</p>		<p>【知識・技能】授業中に扱った基本的な知識を理解している。諸資料を扱う技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】諸資料をもとに思考力を働かせて判断・考察し、その結果を適切に表現している。</p>	○	○		1

年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(1学年用) 教科 数学 科目 数学I

教科: 数学 科目: 数学I 単位数: 3 単位

対象学年組: 第1学年 1組~ 6組

教科担当: (1組:吉開) (2組:吉開) (3組:廣森) (4組:吉開) (5組:廣森) (6組:吉開)

使用教科書: (改訂版 高等学校 数学I)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

【思考力、判断力、表現力等】数学を数学的に考察する能力を培う。また問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

科目 数学I の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基礎的な概念や原理、技能を体系的に理解するとともに、数学を数学化したしる、数学的に考察したり、数学的に処理したりする技能を身に付けるようにする。	【思考力、判断力、表現力等】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。【思考力、判断力、表現力等】数学を数学的に考察する能力を培う。また問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を身に付けようとする。【思考力、判断力、表現力等】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。【思考力、判断力、表現力等】数学を数学的に考察する能力を培う。また問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を身に付けようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	総点
数と式 式を扱うための基本的な用語や計算方法について理解する。また、式を一つの文字に着目して整理したり、1つの式におおきくまとめるなど、目的に応じた式の見方ができるように、式に学習した計算方法と関係付けたり、式を多面的に捉えたりする。	数と式 多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 数式の変形 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	【知識・技能】 数と式、多項式、自乗、乗法などの用語を理解し、式を整理、計算できる。 多項式の加法、減法、乗法、因数分解の公式を理解し、適切に用いることができる。 実数(有理数・無理数)の定義や性質を理解し、根号を含む式や絶対値を含む式の計算ができる。 不等式の性質を理解し、1次不等式や絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 数と式、多項式、自乗、乗法、因数分解の公式を整理し、見直しをすることで計算や因数分解を行うことができる。 数の体系的記号(実数)を整理し、数直線と結びつけて各数体の位置関係を考察できる。 不等式の解の意味を等式と比較し、数量関係を論理的に説明できる。 身近な事象を数や式、不等式で表現し、問題解決に活用できる。 【主体的に学びに向かう態度】 式の整理や変形の工夫に関心をもち、よりよい方法を考えようとする。 関数と因数分解、不等式とグラフなどの関係に着目し、自ら確かめようとする。 数や式の性質を振り返り、学習した内容を体系的に整理しようとする。				18
1学期 集合と命題 中学校までに学んできた数や式を数としてとらえて数論について理解を深め、実数が四則演算に閉じていることや、直線の式の表と1対1に対応していることなどについて理解する。また、簡単な無理数の四則計算や符号の有理化ができるようにする。	命題と条件 命題と証明	【知識・技能】 命題、条件、必要条件・十分条件、逆・裏・裏逆の関係を理解している。 ド・モルガンの法則や分配の意味を理解している。 対偶による証明法や背理法の考え方を理解している。 【思考・判断・表現】 条件を否定したり整理したりして、命題を論理的に考察し、証明できる。 命題の内容に応じて、直接証明・対偶・背理法を適切に選択できる。 【主体的に学びに向かう態度】 命題と集合の関係に着目し、真偽を自ら調べようとする。 証明の方法のよさに気づき、進んで証明に挑戦しようとする。 論理的な考え方を日常的な判断にも生かそうとする。				8
2次関数 関数とそのグラフについて理解する。また、2次関数のグラフの書き方について、頂点の平行移動と関連付けて理解し、2次関数のグラフがかけられるようにする。	関数とグラフ 2次関数のグラフ	【知識・技能】 関数の意味や関数の表記を理解している。 2つの数値の組を関数で表すことができる。 定義域に制限がある1次関数のグラフをかき、特徴を説明できる。 【思考・判断・表現】 2次関数の値の変化を、表・式、グラフを関連付けて考察できる。 日常生活に見られる数量の関係を関数として表現し、その特徴を説明できる。 【主体的に学びに向かう態度】 身近な現象を関数で表そうとし、具体例を見つけて考察しようとする。 座標平面やグラフを用いて理解を深めようとする。				15
2次関数の最大値、最小値をグラフを用いて求められようとし、それを様々な事象の考察に活用できるようにする。また、条件から2次関数を決定できるようにする。	2次関数の最大・最小 2次関数の決定 2次方程式	【知識・技能】 2次関数の式を平方完成し、軸や頂点を求めることができる。 放物線の平行移動や対称移動について理解している。 2次関数が最大値・最小値をもつことを理解している。 定義域に制限がある場合の最大値・最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 表・式、グラフを相互に関連付けて、2次関数の特徴を多面的に考察できる。 グラフの動きと最大値・最小値の変化を関連付けて考察できる。 定式的事象を2次関数で表現し、最大・最小の問題を解決できる。 【主体的に学びに向かう態度】 放物線の性質や対称性・関心をもち、自ら調べようとする。 グラフを積極的に活用し、理解を深めようとする。 日常生活における最大・最小の問題に数学を用いようとする。				1
2次関数 2次不等式も2次関数のグラフと軸の関係から考察し、2次不等式を解けるようにする。	2次関数のグラフと軸の位置関係 2次不等式	【知識・技能】 因数分解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。 1次式と実数係数の1次関数の関係を理解している。 2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。 2次の連立不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 2次関数の値の符号と不等式の解を相互に関連付けて考察できる。 グラフと式との関係に基づき、解の意味を論理的に説明できる。 身近な事象を2次不等式として表現し、解決できる。 【主体的に学びに向かう態度】 関数のグラフを積極的に活用して、理解を深めようとする。 問題の意味や条件について振り返り、よりよい解法を考えようとする。 身近な事象を2次不等式で解決しようとする。				10
図形と計量 三角形の意味やその基本的な性質について理解し、三角形の相互関係を行うなど、三角形を事象の考察に活用できるようにする。	三角形 三角形の相互関係 三角形の面積	【知識・技能】 直角三角形における正弦・余弦・正接の意味を理解し、値を求めることができる。 三角形の相互関係を理解し、1つの値から他の2つの値を求めることができる。 三角形を直角から鈍角へと拡張できる。 三角形を用いて、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角形の辺の長さや角度に着目し、数量関係を式で表現できる。 図を用いて三角形の関係を考察し、論理的に説明できる。 日常の事象や直線と直線とのなす角などを三角形で表現し、考察できる。 【主体的に学びに向かう態度】 三角形の性質や相互関係に関心をもち、自ら調べようとする。 図を積極的に活用して、理解を深めようとする。 三角形を日常生活や社会の事象に活用しようとする。				9
図形と計量 正弦定理、余弦定理について理解し、それらを適切に用いて三角形の辺や角の求められようとし、ある条件下で三角形の面積も求められようとする。また、これらのことを空間図形を含む様々な事象に活用できるようにする。	正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用 空間図形への応用	【知識・技能】 正弦定理、余弦定理を理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 正弦定理、余弦定理を用いて、内角の半分や三角形の面積を求めることができる。 正弦定理、余弦定理を空間図形の計算に応用できる。 【思考・判断・表現】 図形の構成要素間の関係に着目し、適切な定理を選択して考察できる。 正弦定理、余弦定理の意味や成り立ちを、図形的に説明できる。 空間図形の問題を平面図形に帰着させ、論理的に処理できる。 【主体的に学びに向かう態度】 三角形の解や定理の応用に関心をもち、積極的に問題に取り組もうとする。 図や定理を活用して、よりよい解決方法を探ろうとする。 日常や社会の事象に数学を応用しようとする。				19
データの分析 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。目的に応じて複数の種類のデータを適切に表現し、適切な統計量やグラフ、手法などを適切に選択してデータの傾向を把握し、事象の特徴を表現する。力、不変な事象の起こりやすさや目的、背景の状況について、適切な方法を通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	データの整理 データの代表値 データの散らばりや四分位数 データの相互関係 2つの変量の間の関係 確率 確率論的な考え方	【知識・技能】 変数、分散、ヒストグラム、代表値、分散、標準偏差の意味を理解している。 確率論的な意味を理解している。 確率分布や相関関係を用いて、データの傾向を数値化できる。 確率論的な考え方を理解している。 【思考・判断・表現】 データの散らばりや傾向に着目し、適切な方法で分析できる。 複数の統計量を比較し、事象の特徴を的確に説明できる。 相関関係と因果関係を区別して考察できる。 【主体的に学びに向かう態度】 身近なデータを収集し、目的に応じて分析しようとする。 結果を振り返り、結果を振り返りようとする。 統計的な考え方を日常生活に生かそうとする。				9
総計						105
定期考査						1



年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(1学年用) 教科 理科 科目 化学基礎

教科: 理科 科目: 化学基礎 単位数: 2 単位  
 対象学年組: 第1学年 1組~8組  
 教科担当者: (1組: 竹内) (2組: 竹内) (3組: 田代) (4組: 田代) (5組: 竹内) (6組: 田代)  
 (7組: 竹内) (8組: 田代)

使用教科書: (実教出版 化基902 化学基礎 新訂版)

教科 理科 の目標:  
 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。  
 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。  
 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を切りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
<p>単元 物質の構成</p> <p>【知識及び技能】 粒子の熱運動と温度および物質の状態変化との関係について理解する。原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。同位体の定義とその性質を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができるようにする。物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究できるようにする。</p>	<p>・教材 ゼミナール化学基礎 浜島書店 一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 身のまわりの物質を純物質と混合物に分類することができる。物質性するための具体的な方法を身につけて粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 実験3「ヨウ素の分離」において、実験結果を考察し、発表することができる。物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとしている。身近な物質の状態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心をもち、それらを意欲的に探究しようとしている。また、意欲的に「やってみよう」「考えてみよう」に取り組んでいる。</p>	○	○	○	12
定期考査	共通問題で行う。振り返りを行う。		○	○		2
<p>単元 物質と化学結合</p> <p>【知識及び技能】 元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。水溶液中や溶解した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 どのように金属元素どうしが結びついているのかについて探究しようとする。金属に共通する性質について、探究しようとする。身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。</p>	<p>・教材 ゼミナール化学基礎 浜島書店 一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 原子は原子核と電子からなっており、価電子が物質の性質を決めていることを理解している。同位体についての正しい知識を身につけている。元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。共有結合を電子配置と関連付けて理解している。配位結合について理解している。分子の電子式・構造式を書くことができる。電気陰性度を理解している。分子の極性を理解し、分子結晶や高分子化合物について理解している。金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現することができる。イオンの生成を電子配置と関連付けて考えることができる。イオン結合でできた物質に共通する性質について、推論することができる。水溶液中や溶解した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。実験5「分子模型の製作」を通して、分子の結合と形について考えることができる。電気陰性度を理解し、分子の形とあわせて極性について考えることができる。実験6「分子の極性と溶解」を行い極性についての理解を深め、実験で得た知識を発表することができる。自由電子と金属の性質を結び付けて考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 元素の性質に興味をもち、元素の性質が周期的に変化することを探究しようとしている。イオン結合でできた物質の性質について探究しようとしている。分子からなる物質や、共有結合の結晶の性質について探究しようとしている。金属元素どうしがどのように結びついているのかについて探究しようとしている。金属に共通する性質について、探究しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査	共通問題で行う。振り返りを行う。		○	○		2
<p>単元 物質量と化学反応式</p> <p>【知識及び技能】 原子量・分子量などに単位グラムをつけた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が6.0×10<sup>23</sup>個で、この粒子の集団を1molということを知る。溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 非常に小さな質量の原子や分子の質量は、12Cを基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 溶液の濃度の表し方について探究しようとする。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。</p>	<p>・教材 ゼミナール化学基礎 浜島書店 一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的に理解している。物質量を用いた基本的な計算ができる。化学式が使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身につけている。物質量と気体の体積の関係を理解している。モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解している。溶液調製に必要な実験器具を適切に取り扱い、目的とする濃度の水溶液を調整する技能を習得している。基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現することができる。実験8「化学反応式の量的関係」を行い、反応式の係数が、物質量の比を表していることを見出すことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 溶液の濃度の表し方について探究しようとしている。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査	共通問題で行う。振り返りを行う。		○	○		2
<p>単元 酸と塩基</p> <p>【知識及び技能】 水素イオン濃度とpHとの関係を知り、pHの値で、水溶液の酸性・塩基性の程度がわかることを理解する。酸と塩基が反応するたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の酸性を理解する。H<sup>+</sup>とOH<sup>-</sup>とが1:1で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解し、pHの指標の便利さと実用性を理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 酸と塩基が反応するたがいの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の酸性を理解する。H<sup>+</sup>とOH<sup>-</sup>とが1:1で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。</p>	<p>・教材 ゼミナール化学基礎 浜島書店 一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解している。実験10「pHの測定」を行い、pH試験紙やpHメーターでいろいろな溶液や身近な物質のpHを測定する技能を習得している。中和反応における量的関係を理解している。実験11「中和滴定」を行い、メスフラスコ、ビュレット、ホールビペットなどの実験器具の取り扱いを習得している。酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】 酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解し、電離度に関連付けて考察することができる。実験10「pHの測定」を行い、さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 酸・塩基はどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査	共通問題で行う。振り返りを行う。		○	○		2
<p>単元 酸化還元反応</p> <p>【知識及び技能】 酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であることを理解する。日常生活や社会との関わりを例として、電池や金属の製錬を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元との関係を理解する。また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であることを理解する。</p>	<p>・教材 ゼミナール化学基礎 浜島書店 一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】 酸化・還元定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。酸化数の定義を理解している。酸化剤・還元剤について理解し、酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができる。イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。酸化還元反応の量的関係を理解している。金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。実験13「金属のイオン化傾向と金属銅」を行い、金属のイオン化傾向を系統的に整理し、表現することができる。また、得られた知識から、どのような反応が起こるかを推察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 身近な現象と酸化還元反応を関連付けて考えることができる。酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	12
定期考査	共通問題で行う。振り返りを行う。		○	○		2
合計						70

高等学校 令和8年度 教科

理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～8組

教科担当者：(1・2・6・8組：渡辺) (3・4・5・7組：佐藤)

使用教科書：(高等学校 生物基礎 啓林館)

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 生物の特徴 【知識及び技能】 生物の特徴について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに 関する技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養う。	【指導事項】 ・探究のプロセスや手法を理解する。顕微鏡の使い方を習得する。 ・多様な生物にも共通性があることを理解する。多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。生命活動にはATPのエネルギーが利用されていることを理解する。 ・呼吸や光合成ではATPが合成されていることを理解する。生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ・DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解すること。	【知識・技能】 顕微鏡の使用手法や、グラフ等の読み取り方法を理解している。実験方法や歴史から情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 実験結果やグラフ等を用いた効果的な伝え方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 顕微鏡を用いて探究的に学ぼうとする態度がある。クラスメイトと話し合いの中で積極的に問題を解決しようとする姿勢が見られる。	○	○	○	25
2 学期 C 生物の多様性と生態系 【知識及び技能】 生物の多様性と生態系について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。また、生態系の保全の重要性について認識すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	【指導事項】 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解すること。 また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解すること。 ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解すること。また、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解すること。 ・生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解すること。また、生態系の保全の重要性を認識すること。	【知識・技能】 生態系の関係図や、グラフ等の読み取り方法を理解している。資料や観察から情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 実験結果やグラフ等を用いた効果的な伝え方について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な活動の中で探究的に学ぼうとする態度がある。クラスメイトと話し合いの中で積極的に問題を解決しようとする姿勢が見られる。	○	○	○	30
3 学期 ヒトの体の調節 【知識及び技能】 ヒトの体の調節について、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重する態度を養う。	【指導事項】 ・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解すること。 ・体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解すること。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解すること。 ・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が働いていることを見いだして理解すること。	【知識・技能】 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 【思考・判断・表現】 ・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン濃度の関係に気づき、説明できる。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 ・免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 身近な経験から、クラスメイトと話し合いの中で積極的に問題を解決しようとする姿勢が見られる。 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 【思考・判断・表現】 ・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン濃度の関係に気づき、説明できる。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 ・免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。	○	○	○	15
						合計
						70

年間授業計画

保谷 高等学校 令和8年度(1学年用) 教科 保健体育 科目 体育

教科: 保健体育 科目: 体育 単位数: 2 単位

対象学年組: 第1学年 1組～8組

教科担当: (1～8組: 青木・大山・三浦・指田・阿部・上島)

使用教科書: ( )

教科 保健体育

の目標:

【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康・安全に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。

【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

科目 体育

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。また、健康・安全を確保し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を自ら発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組むこと、互いに協力する、自己の責任を果たす、参加する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	意	配当 時数
1 陸上 【知識及び技能】 ・各種目の動きのポイントを理解して、意識した動きを実践することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・記録更新に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・ルールやマナーを大切にすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・ドリル ・50m走 ・100m走 ・走り幅跳び ・ハードル走 ・リレー	【知識・技能】 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走では、中間走へのつなぎを確かにして走ることができる。 ・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを越すことができる。 ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 【思考・判断・表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。自己の責任を果たそうとすること。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保し、回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
2 器械運動 【知識及び技能】 ・各種目の動きのポイントを理解して、意識した動きを実践することができる。 ・連続技を構成し、発表することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・一人1台端末を使用し、自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・技を磨くために意欲的に取り組むことができる。 ・性根がないようマナーを大切にすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・前転、後転 ・開脚前転、開脚後転 ・前転、三転前転 ・倒立、倒立前転、後転倒立 ・ハンドスプリング ・連続技 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・技術の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに実行し、動作を変えた技や発展技を行うことができ、それらも構成し演技することができる。 【思考・判断・表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・器械運動に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。自己の責任を果たそうとすること。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保し、回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
3 球技「フットボール(サッカー)」 【知識及び技能】 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻守を行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・スマッシュ、フットパス、サーブ ・スキルテスト ・リーグ戦 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・試合の進め方、勝敗を制したりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技の性質などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 【思考・判断・表現】 ・動きや連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作りだして攻撃したり、その攻撃に対して守ることを中心に自己のチームや相手チームの特徴を活かした作戦を立てて、ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きをすること。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・試合に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	12
4 水泳 【知識及び技能】 ・各種目の動きのポイントを理解して、意識した動きを実践することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・記録更新に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・ルールやマナーを大切にすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ ・25m計測	【知識・技能】 ・泳法の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・クロールでは、手足の動き、呼吸のバランスを確保し、安定したペースで長く泳いでいくことができる。 ・平泳ぎでは、手足の動き、呼吸のバランスを確保し、安定したペースで長く泳いでいくことができる。 【思考・判断・表現】 ・泳法の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・自己の責任を果たそうとすること。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の競技法に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。	○	○	○	10
5 球技「バスケットボール」 【知識及び技能】 ・バスケットボールの基本的なボール操作と仲間と連携して自陣から相手ゴール前へ侵入するなどの攻撃や、その動きに応じて空間を埋めるなどの防衛の動きで攻守を展開することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分の動きや相手の動きを見て、改善点を話し合いを通じて、伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ルールやマナーを大切に、協力して試合をすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・パス、ドリブル、シュート ・スキルテスト ・ゲーム	【知識・技能】 ・試合の進め方、勝敗を制したりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技の性質などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 【思考・判断・表現】 ・動きや連携した動きによって空間への侵入から攻守を行うことができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・試合に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	10
6 陸上 【知識及び技能】 ・自分のペースで走ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・相手のタイムを見て、ペースを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・記録更新に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・ルールやマナーを大切にすることができる。	・整列指導、準備体操、補強運動 ・30分間走 ・2000m走 ・3000m走	【知識・技能】 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・自己に選んだペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを記録したり、競走したりできるようにする。 【思考・判断・表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。自己の責任を果たそうとすること。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保し、回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
7 体づくり運動 【知識及び技能】 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て、実生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、体力などの違いに応じた責任を担うことができる。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	・整列指導 ・一人1台端末の活用 ・ペアワーク ・リズム	【知識】 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること。一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする。話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保し、回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
合計						
						70





保谷 高等学校 令和8年度(1学年用) 教科

芸術 科目 美術 I

教科: 芸術

科目: 美術 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 8 組

教科担当者: (1組: 小野) (2組: 小野) (3組: 小野) (4組: 小野) (5組: 小野) (6組: 小野) (7組: 小野) (8組: 小野)

使用教科書: (光村出版 美術 I)

教科 芸術

の目標:

- 【知識及び技能】 教授内容を理解し、各自の作品に落とし込む
- 【思考力、判断力、表現力等】 自ら主題を生成し、用具の特性を生かして制作する
- 【学びに向かう力、人間性等】 作品や作品制作から造形的なよさや美しさを感じ取り、作品がもつ主題について考え自分の言葉で表す

科目 美術 I

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			絵 ・ 彫	デ 映								
1 学 期	A 単元「身近なものを描こう」 【知識及び技能】 身近なものを描くことに興味をもち、身近なものを見つめ感じ取った特徴や、ものに対する自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 主題と共に、形や色、用具の使い方	・幾何学形態石膏による基礎練習 ・具体的な用具の使用法 ・4B~2H鉛筆 ・八つ切りM画用紙 ・練りゴム ・カッターナイフ ・一人1台端末の活用 等	○			○	【知識及び技能】 デッサンの工程を理解している 形や色、質感に応じた使用画材や表現で描いている 【思考力、判断力、表現力】 身近なものを見つめ、そこから主題を生成し、自ら材料や用具の特性などについて考えている		○	○	○	18
	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行き表現などを工夫して制作する	・エスキースに重きを置き制作の見通しを立てる ・混色ブックなど用意し表現の幅を自ら広げられるようにする ・ワークシートなど多用し主題を見つけやすくなるようサポートする ・教材 アクリル絵具、F8キャンバ	○			○	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行き表現などを工夫して制作する 【学びに向かう力、人間性等】		○	○	○	22
2 学 期	A 単元「風景を描こう」 【知識及び技能】 心惹かれる風景をあらわすことに興味をもち、風景から感じ取ったことや、自分の思いなどから主題を生成する 【思考力、判断力、表現力等】 光や陰影、奥行き表現などを工夫して制作する 【学びに向かう力、人間性等】	・エスキースに重きを置き制作の見通しを立てる ・混色ブックなど用意し表現の幅を自ら広げられるようにする ・ワークシートなど多用し主題を見つけやすくなるようサポートする ・教材 アクリル絵具、F8キャンバ、筆	○			○	【知識・技能】 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、光や陰影、奥行きなどの造形的な特徴などをもとに、風景や風景を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思考・判断・表現】 心惹かれる風景を見つめ感じ取ったことや、その風景に対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、光や陰影、構図や奥行きな		○	○	○	18
	A 単元「作家調べ」 【知識及び技能】 美術作家関心をもち、その活動や創作過程から美術作家という生き方を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 ICT機器を活用し、他者に向けて調べた内容及び自身で精査した情報をまとめていく 【学びに向かう力、人間性等】 完成したパワーポイントを発表し合	指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等		○		○	【知識・技能】 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、生命感をあらわした身近な人や動物の彫刻を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思考・判断・表現】 人や動物など見つめて感じ取った生命感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○	○	12
											合計	70





年間授業計画 新課程  
**高等学校 令和8年度（1学年用）教科 外国語 科目 論理・表現 I**  
 教科：外国語 科目：論理・表現 I 単位数：2 単位  
 対象学年：第 1 学年 1 組、2 組  
 教科担当書：（1組：英学）（2組：英学）（3組：英学）（4組：英学）（5組：英学）（6組：英学）  
 使用教科書：（1組：大平・本多）（2組：大平・本多）  
 使用教科書：（Vision Quest English Logic and Expression I Standard）  
 教科：外国語  
 科目：論理・表現 I  
 単位数：2 単位  
 対象学年：第 1 学年 1 組、2 組  
 教科担当書：（1組：英学）（2組：英学）（3組：英学）（4組：英学）（5組：英学）（6組：英学）  
 使用教科書：（Vision Quest English Logic and Expression I Standard）

【授業及び技術】 外国語の読解、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる能力を身に付ける。  
 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切な表現を用いて話し合ったり書いたりすることができる。  
 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の授業にある文化に対する理解を深め、関心を持ち、話し手、聞き手に配慮しながら、主体的、協力的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

単元	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	到達目標				評価	教科書	単元
			知識	技能	思考力	表現力			
1	Unit 1 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 1 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 1 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	1
	Unit 2 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 2 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 2 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	2
	Unit 3 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 3 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 3 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	3
	Unit 4 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 4 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 4 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	4
	Unit 5 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 5 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 5 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	5
	Unit 6 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 6 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 6 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	6
2	Unit 7 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 7 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 7 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	7
	Unit 8 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 8 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 8 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	8
	Unit 9 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 9 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 9 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	9
	Unit 10 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 10 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 10 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	10
	Unit 11 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 11 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 11 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	11
	Unit 12 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 12 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 12 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	12
3	Unit 13 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 13 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 13 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	13
	Unit 14 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 14 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 14 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	14
	Unit 15 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 15 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 15 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	15
	Unit 16 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 16 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 16 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	16
	Unit 17 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 17 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 17 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	17
	Unit 18 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 18 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	単元 18 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	○	○	18



## 令和 8 年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(1 学年)

## 1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	探究活動ガイダンス	<b>■講演・体験活動</b> ・探究活動及びキャリア・パスポート活用の目的・意義や年間計画、個人における問いの設定に向けたガイダンスを実施する。 ・TGGで活動に参加させ、グローバル社会への理解を深めさせる。	活動 (AL) の様子、キャリア・パスポートへの記入内容等に基づき、形成的に評価する。	3
	5 6	社会で働く意義への理解を深めさせる 現代の社会課題とその解決に向けた自らの関わり方について考えさせる 問いの設定へ向けて指導する	<b>■講演・演習</b> ・有識者の講演を聞き、キャリア形成や職業への理解を深めさせる。 ・様々な分野に関する教養講座を受講させ、現代の社会課題や自己との関わりへの理解を深めさせる。 ・問いの設定に向けて、自己の興味・関心と社会課題とのつながりを考えさせる。	活動 (AL) の様子、キャリア・パスポートへの記入内容等に基づき、形成的に評価する。	2 4
2	7		<b>■演習</b> ・キャリア・パスポートの作成により、1 学期の振り返りをさせる。	活動への取組みの様子に基づき、総括的評価を行う。	3
	8 9 10		<b>■演習</b> ・各種ワークに取組み、問いを設定させる。 (探究とは何か／問いの発見／問い ・仮説の立案)	活動 (AL) の様子、キャリア・パスポートへの記入内容等に基づき、形成的に評価する。	3 4
	11	クラスの垣根を越えたグループで探究した成果を共有させる	<b>■体験活動</b> ・異なるクラスの生徒たちとのグループにおいて、問いやその設定、調査・分析など今後の見通し・計画を発表・共有させる。 <b>■演習</b> ・各種ワークに取組み、設定した問いに基づき調査・分析を進めさせる。 (調査・実験方法の選定／調査・実験の計画／調査・実験の実施・整理／結果の分析・考察)		4
	12	探究した成果を分かりやすく伝える工夫を学ばせる	<b>■演習</b> ・探究の成果発表 (ポスターセッション) に向けて準備を進めさせる。 ・キャリア・パスポートの作成により、2 学期の振り返りをさせる。	キャリア・パスポート、生徒による自己評価等に基づき、総括的評価を行う。	3
	1 2	個人の発表を聞き、学んだことを共有させ、深めさせる 代表生徒の発表を学年全体で聞かせ、成果を共有させる	<b>■体験活動</b> ・クラス内で発表させ、探究の成果を共有させる。学年全体の前で発表する代表生徒を決める。 ・代表生徒の発表を聞くことで、様々な社会課題に関する学びを深めさせる。		3 4

	3	<p>1年間の活動を振り返る</p> <p>2学年の探究活動事前学習</p>	<p>■演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・パスポートの作成により、年間の学びの振り返り・自己評価を行わせる。</li> </ul> <p>■講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の学びを総括するガイダンスを通して、2学年の探究活動への展望を考えさせる。</li> </ul>	<p>キャリア・パスポート、生徒による自己評価、体験活動への取組みの様子に基づき、文章記述による総括的評価を行う</p>	2
<p>配当時間数の合計</p>				35	